

日本都市社会学会ニュース

NO. 78 (2007. 11. 30)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

立教大学社会学部江上渉研究室内

e-mail：u-socio@grp.rikkyo.ne.jp

FAX：03-3985-2833

(振替口座：00140-4-703976)

URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/urbansocio/

第25回大会の報告

中根光敏（広島修道大学）

日本都市社会学会第25回大会は、9月21日(金)と22日(土)の両日にわたって、山口大学吉田キャンパス（大学会館）で開催されました。

地方を会場とした大会ということで、「参加者が少なくなるのでは」という心配もありましたが、フタを開けてみれば、大会参加者は95名、非会員の参加も12名を数えました。こうした喜ばしい結果は、大会企画として周到な準備のもとにテーマ部会とシンポジウムが組まれたことや、自由報告が両日にわたり2部会ずつ計4部会（報告数19本）もたれたことなどを考えれば、決して偶然ではなく、会員の方々による日々の研究活動が結実した当然の結果だと言えるのかもしれませんが。

初日の午後にはテーマ部会「都市社会学はエスニシティ研究に何ができるか—国際社会学からの問題提起を受けて—」が行われました。まず、国際社会学から「移民のコミュニティや生活世界を記述するというシカゴ学派的パラダイムの日本への応用は、都市社会学的エスニシティ研究という独自の研究領域を確立しつつも、国家やグローバルな市場という制度や構造的文脈を見落としてきた」という挑発的な批判・問題提起を受けて、都市社会学から3本の報告がなされたあと、報告者・フロアを交えて活発な議論が展開されました。

二日目の午後にはシンポジウム「地域福祉の現在と未来—都市社会の力を問う—」が行われました。少子高齢化、家族、地域社会などの変化に対応すべく地域福祉推進の機運が高まる中で、都市社会学と社会福祉学との境界領域に位置づけられる地域福祉の問題をめぐって、「福祉コミュニティ」「アメリカのNORC-SSPs」「福祉NPO」に関する研究報告がなされた後、討論者・フロアを交えて活発な議論が展開されました。

四半世紀の節目となる第25回大会は、彼岸を過ぎても衰えない記録的な猛暑に負けないほど熱い議論が交わされたこと、湯田の温泉が残暑をひととき忘れさせてくれたことなどなど、記憶に残る大会でした。

最後に、今大会の実施にあたって、素晴らしい環境を整えてくださった開催校の皆様方や事務局の皆様方に感謝いたします。

会長就任にあたって

町村敬志（一橋大学）

いままぜ都市社会研究なのか。再び変化のスピードが速くなり始めた都市の姿を目前にしなが、いろいろと思いを巡らしていたところ、この度、日本都市社会学会の会長を思いがけず務めさせていただくことになりました。

思い起こせば、兵庫教育大学で開催された第1回大会から四半世紀、都市社会を取り巻く問題状況も大きく変化しました。産業構造の転換、経済的グローバル化、国境を越える人口移動、市場経済の席捲。この間の変化をひとつのセットとして大局的に眺めていくとき、およそ100年前、都市社会研究が独自の用語や独自の方法を伴いながら姿を現した時代が、私たちの生きるこの時代と似た様相を呈していたことに気がつくのは私だけではないと思います。工業化、世界市場の拡大、大西洋や太平洋を越える移民の群れ、経済的自由主義、これらが社会と空間にもたらした変化を理解していく現場から、都市社会学が誕生したといっても過言ではありません。ジン

メル「大都市と精神生活」(1903)、パーク「都市」(1916)、ウェーバー『都市の類型学』(1920-21)といった約1世紀前の作品群は、その一例と言ってよいでしょう。

では、いま私たちが経験している社会と空間の相互連関的な変化を表現する上で、どのような知のスタイルが適切なのでしょう。そこで「都市」は、有効な切り口であり続けられるのか。この問いに対しておそらく即座にイエスと言えないところに、都市社会学が現在直面している困難があるのだと思います。しかしながら、新しい変化に果敢に取り組んできた「知のプロジェクト」としての都市社会学には、多くのストックが内蔵されています。必要なことは、このストックをただ守ることではなく、それを時代の新しい変化に向かい勇気を持って生かしていくことなのだと考えます。都市社会学のそうした可能性を延ばしていくことをめざしながら、微力ではありますが努力をいたしてまいりたいと思います。どうか会員の皆様のご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

総会の記録

総会は、大会1日目の9月21日(金)、下記の次第に沿って行われました。

1. 開会の辞(稲月 正理事)
2. 会長挨拶(松本 康会長)
3. 開催校挨拶(三浦典子会員)
4. 座長推挙(青木秀男会員を選出)

5. 諸報告

(1) 2006年度理事会報告

広田康生常任理事(庶務担当)より2006年度の理事会に関する報告がありました。

(2) 2006年度企画委員会報告

園部雅久理事(企画委員会委員長)より2006年度の企画委員会活動についての報告がありました。

(3) 2006年度編集委員会報告

山下祐介理事(編集委員)より2006年度の編集委員会活動についての報告がありました。

(4) 新入会員紹介

広田康生常任理事より新入会員13名の紹介があり、全員拍手をもって確認されました。

(5) その他

“「東京」を観る、「東京」を読む。”展(日本大学文理学部主催)の後援に関する報告と紹介がありました。

6. 第5回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の選考結果報告と授与式

広田康生選考委員長より選考過程及び結果の報告があり、玉野和志著『東京のローカル・コミュニティある町の物語一九〇〇-八〇』(東京大学出版会、2005年)に同賞が授与されました。なお、受賞者には会長より賞状と記念品が授与されました。

7. 議事

(1) 規約改正について

広田康生常任理事から「日本都市社会学会旅費補助規定」の改正について説明があり、承認されました。

(2) 2006年度決算報告及び監査報告

玉野和志理事から2006年度決算についての報告、次いで金子勇監査から監査報告があり承認されました。

(3) 2007年度予算承認の件

玉野和志理事から2007年度予算についての説明があり承認されました。

(4) 倫理綱領およびガイドラインについて

松本康会長から倫理綱領・ガイドラインの制定について説明があり、承認されました。あわせて研究倫理委員会は解散しました。

(5) 役員選出の件

①選挙管理委員の推挙

松本会長より野澤慎司会員ほか4名の会員に選挙管理委員を委嘱するとともに、野澤会員に選挙管理委員長を委嘱することが提案され、承認されました。

②会長選挙

役員選出規程第1条に基づき投票が行われ会長が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

町村敬志会員 19 票 (次点：三浦典子会員 9 票)

③理事選挙

役員選出規程第3条及び第5条に基づき投票が行われ、全国区4名、地方区4名の新理事が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

全国区 (4名)

谷富夫会員 20 票 金子勇会員 16 票 広田康生会員 14 票 渡戸一郎会員 12 票

(次点：有末賢会員 8 票、後藤範章会員 8 票)

地方区 (各地区1名)

北海道・東北地区 吉原直樹会員 2 票 (次点：山下祐介会員 1 票)

関東地区 江上渉会員 20 票 (次点：後藤範章会員 7 票)

中部・関西地区 早川洋行会員 2 票 (次点：山本かほり会員 1 票)

中国・四国・九州地区 青木秀男会員 5 票 (次点：横田尚俊会員 2 票、三隅一人会員 2 票)

④監査選挙

役員選出規程第3条に基づき投票が行われ新監査が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

後藤範章会員 13 票 森岡清志会員 6 票 (次点：松本康会員 5 票)

(6) 新事務局について

松本会長から事務局を専修大学広田康生研究室から立教大学江上渉研究室への交替が説明され、承認されました。

(7) 次回大会の件

松本会長より 2008 年度の大会 (第 26 回大会) を、2008 年 9 月 20 日 (土)、21 日 (日) に、法政大学多摩校舎で開催する旨の報告があり承認されました。また、大会開催校を代表して法政大学・中筋直哉会員より挨拶がありました (なお、諸般の事情から 2008 年度大会の日程は 2008 年 9 月 13 日 (土) 14 日 (日) に変更になりました)。

9. 閉会の辞 (稲月正理事)

<規約等の改正について>

本学会ニュースでは、2007 年 9 月に改正され規約等の要点のみを掲載します。改正された条文については「日本都市社会学会会員名簿 (2007 年版)」の巻末をご参照下さい。

1. 「日本都市社会学会旅費補助規定」の改正

1. 補助対象者は、理事会、企画委員会、編集委員会、学会賞選考委員会及びシンポジウム、テーマ部会打ち合わせに出席し、往復 1 万円以上の旅費を要する者、ただし、日本都市社会学会、日本社会学会と同時に出席する場合はのぞく。
2. 補助額は、往復交通費実費の 40%とし、年間 3 回までを限度とする。

2. 「研究倫理委員会細則」の廃止

「日本都市社会学会倫理綱領」および「日本都市社会学会 標本調査に関するガイドライン」の制定にともない、同細則は廃止されました。

2006 年度決算報告および 2007 年度予算

2006年度決算(2006年4月1日～2007年3月31日)

収入				支出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	28,000	36,000	18名分	消耗品費	50,000	36,247	文具、封筒等
学会費	1,105,000	1,208,000	一般196人分 学生57人分	通信費	150,000	101,105	
広告収入	60,000	45,000	06年度分	ニュース印刷費	90,000	122,955	350部×2回、400部×1回
雑収入	40,000	19,356	複写権収入等	年報印刷費	603,750	664,650	450部(予算は消費税・送料料を含まず)
年報販売	110,000	207,300		大会開催費	120,000	120,000	
				役員・委員会費	100,000	100,422	委員交通費含む
				事務局費	400,000	290,254	事務局手当、アルバイト代含む
				編集委員会事務局費	80,000	19,485	
繰越金	1,122,011	1,122,011		予備費	871,261	11,896	学会賞状代
計	2,465,011	2,637,667					
				次年度繰越金		1,170,653	

2007年度予算案(2007年4月1日～2008年3月31日)

収入			支出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	70,000	文具、封筒等
学会費	1,150,000	一般190人分 学生50人分	通信費	120,000	
広告収入	50,000	07年度分	ニュース印刷費	120,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	複写権収入等	年報印刷費	600,000	450部(見積印刷費のみ557,550円)
年報販売	150,000		大会開催費	150,000	
			役員・委員会費	250,000	役員・委員の交通費を含む
			事務局費	400,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	15,000	
			企画委員会費	80,000	
			名簿印刷費	80,000	
			編集委員会事務局費	80,000	編集関係通信費、事務局員手当を含
繰越金	1,170,653		予備費	605,653	
計	2,570,653			2,570,653	

2007 年度臨時総会の記録

9月22日(土)、新理事会終了後の午後1時から臨時総会が開催されました。町村敬志新会長より以下の報告があり、承認されました。

1. 役員選出規定第6条にもとづき、常任理事として理事のうちから金子勇、渡戸一郎、早川洋行の3名を指名した。
2. 理事のうち、各種委員会の委員長および委員の分担は以下のとおり。
 - [企画委員会] 委員長：渡戸一郎常任理事
 - [編集委員会] 委員長：早川洋行常任理事
 - [国際交流委員会] 委員長：未定
3. 各委員会担当理事、学会賞選考委員会を除く各委員会委員および日本都市社会学会若手奨励賞推薦委員については人選中であり、総計でかなりの数にのぼるので、会員各位のご協力を是非賜りたい。

第5回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品の紹介と選考理由

2007年度日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会は、3月25日（日）及び7月22日（日）の2回にわたり開催され、次の作品を第5回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品とすることを決定した。

1. 受賞作品

玉野和志『東京のローカル・コミュニティある町の物語一九〇〇-八〇』（東京大学出版会）2005年3月

2. 受賞理由

玉野和志『東京のローカル・コミュニティある町の物語一九〇〇-八〇』（東京大学出版会、2005年）は、東京の、ある特定地域を舞台にしながら、町内社会（そして町内会体制）の丹念な描写、分析を軸に、大都市東京のマクロな変動過程と地域の階層構造の変動過程を、一篇の都市社会学的モノグラフの形式において表現した作品である。特に第二次世界大戦後の東京の地域社会に展開した、旧地主層から産業資本家層、自営業者層、サラリーマン層への主体の展開過程を追いながら、こうしたいわば都市社会の基層部分をなす幾つかの階層に属する人々が、地域社会の中でどのように育ち、何を目指して生きてきたのか、何を克服しようとしてきたのかを具体的な事例から丹念に描き出している点、さらにこうした視点においては従来あまり注目されることのなかった女性・妻たちの地域活動や宗教団体に焦点をあてて描きだしている点など、斯学において同様の問題意識を持つ研究者のみならず都市社会研究者一般に対して、人々の身近な生活から都市のマクロな構造変動の分析に至る方法論的可能性とその意義を示唆、立証するものとして高い評価を得た。明快な構成と読み手の心に迫る表現方法、著作としての完成度の高さも評価され、第5回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の受賞作品として相応しい研究業績と認められた。

惜しくも次点となったが選考委員会としては、中筋直哉『群衆の居場所—都市騒乱の歴史社会学』（新曜社、2005年2月）についても高い評価を得たことを付言しておきたい。本著作は、都市の群衆騒乱に照準して日本の近代を探る研究事例として、その視点の独創性と研究者としての意欲が高く評価された。特にこのような作品が都市社会学会会員の業績として刊行されたことも選考委員会として特筆しておきたい。

（日本都市社会学会賞選考委員会委員長 広田康生）

国際社会学会「都市・地域発展の現在」東京会議（ISA・RC21）のご案内

国際社会学会(ISA)の「都市・地域発展」研究部会 (Research Committee 21) は、1970年の設立以来、世界の都市・地域社会学研究における先端的交流の場として、毎年、国際会議を開催してきました。2008年12月、日本都市社会学会からもご後援をいただき、この会議が東京で開催される予定です。以下、会員の皆様にご案内を申し上げます。

- テーマ : Landscape of Global Urbanism: Power, Marginality, and Creativity
- 場所 国際文化会館 (東京都港区)
- 時期 2008年12月17・18・19・20日 (水・木・金・土) (予定)

(1) 会議への参加について

通常の学会と同様、個人の申し込みに基づく自由報告（英語）が中心となります。ただし申し込みは、あらかじめ提示される複数のセッション・テーマに基づき、コーディネーターへ直接行うことが原則となります。今後のスケジュールとして、セッション・コーディネーターの募集<2008年1月頃>、セッション・テーマの発表と報告募集開始<2008年2月頃>、報告申し込み（英文要旨）の締め切り<2008年4月頃>、プログラムの最終決定<2008年8月頃>を予定しています。なお報告に際して、ISAの会員、RC21の会員となる必要はありません（RC21会員には登録料割引のメリットがあります）。多くの皆様のご参加を心から歓迎いたします。

東京会議の情報については、次のISA・RC21のサイトに順次掲載されます。2007年8月のバンクーバー会議の情報はこちらで入手可能です。また、東京会議の日本語サイトも開設予定です。URLについては下記の町村のサイトでご確認下さい。その他、ご質問については、事務局の町村敬志 (cs00035@srv.cc.hit-u.ac.jp) または

丸山真央 (mm21@sepia.ocn.ne.jp) までお寄せ下さい。
http://www.shakti.uniurb.it/rc21 : ISA・RC21 のサイト
http://homepage3.nifty.com/machimura/ : 町村敬志のサイト

(2) 「国際会議へ参加するために」説明会の開催について

会議開催に当たり、東京会議組織委員会は、多くの若手研究者の皆さんの参加をお待ちしています。ただし、英語使用が基本となる、また国際会議のイメージがつかみにくい、などの理由で、躊躇される方も少なくないことと思います。このため、本会議の内容紹介にとどまらず、国際会議への参加の仕方、英語による報告の準備・仕方などについて、とりわけ国際学会報告の経験がまだない大学院生・若手研究者の方を念頭に置きながら、説明を行う会を下記の通り開催いたします。都市・地域に関する研究分野を専攻され、ISA・RC21 東京会議への参加にご興味がある方であれば、ご所属や日本都市社会学会会員資格の有無を問わず、参加をすることができます。なお、会場整理の都合もありますので、できるだけ事前に、下記アドレスまでご連絡をいただけますと幸いです。

●時期 2008年1月26日(土) 午後1時30分～午後4時

●場所 立教大学池袋キャンパス 9号館 9205教室 (立教大学サイトで場所をご確認下さい)

●連絡先 山本薫子 (山口大学) (ZVE07037@nifty.com)

(文責 ISA・RC21 東京会議組織委員会 事務局 町村敬志)

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

まだ学会費を納入されていない会員の方には、学会費納入用の振込用紙を本ニュースに同封いたしましたので、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。なお、前年度(2006年度)までの学会費が未納の会員の方には『日本都市社会学会年報』25号をお送りできませんのでご了承ください。なお、『年報』に関しましては、事務局が学会費納入を確認し次第お送りいたします。また、継続して5年以上会費を滞納している会員の方は、2007年度中に滞納分の会費を納入していただかないと会員の資格を失うこととなりますので、ご注意ください。

2. 第26回大会開催について

第26回大会は、2008年9月13日(土)、14日(日)に、法政大学多摩校舎にて開催されます。諸般の事情から第25回大会時のお知らせから変更になっておりますのでご注意ください。

3. 理事会報告

(1) 2006-2007年度第4回理事会報告

9月16日(日)15:00より年次大会前の第4回理事会が専修大学神田校舎で開催されました。本理事会では、①学会賞選考委員会から第5回磯村賞の選考過程と受賞作品について広田康生委員長から報告がありました。②企画委員会、編集委員会からそれぞれの活動とともに申し送り事項が報告されました。企画委員会からは第26回大会でのシンポジウム企画の検討過程についての説明がありました。審議事項として①新入会員、退会者について、②理事会の引き継ぎ事項について、③国際社会学会RC21について、④『年報』の価格表記(本体価格2000円)について、⑤06年度決算案、07年度予算案などがありました。

(2) 2007-2008年度第1回理事会報告

2007年度第1回理事会は、9月22日(土)、第25回大会2日目に開催され、理事の役割分担が決定されました。詳しくは、「臨時総会の記録」の項をご覧ください。

(3) 2007-2008年度第2回理事会報告

2005年度第2回理事会は、10月14日(日)午後3時30分から立教大学で開催されました。

①企画委員会、編集委員会からそれぞれの委員候補が確定したことが報告されました。委員は以下のとおりです。

企画委員会 渡戸一郎(委員長・担当理事)、吉原直樹(担当理事)、浅川達人会員、新田目夏実会員、若林幹夫会員、松菌祐子会員、徳野貞雄会員、中西典子会員、山本かほり会員、中筋直哉会員、

山下祐介会員、水上徹男会員

編集委員会 早川洋行(委員長・担当理事)、谷富夫(担当理事)、中澤秀雄会員、松宮朝会員、横田尚俊会員、渡邊登会員、近藤敏夫会員、西山志保会員、新原道信会員

国際交流委員会 青木秀男(委員長・担当理事)、吉原直樹(企画委員会担当理事)、谷富夫(編集委員会担当理事)、新原道信会員、水上徹男会員、魯富子会員

②日本都市社会学会若手奨励賞の推薦委員が町村会長から委嘱されることになりました。

③編集委員会のもとに査読委員会をおくことが了承され、査読委員として15名が挙げられ承認されました。

④ISA・RC21について、町村会長(東京会議組織委員会)から概要について説明があり、都市社会学会としての対応を協議しました。

(事務局担当理事 江上渉)

編集委員会からのお知らせ

◆ 編集委員会事務局の移転について

新体制の編集委員会の発足に伴い、編集委員会事務局を一橋大学の町村研究室から滋賀大学の早川研究室へ移転することになりました。引き続き、完全原稿ご提出以降の作業をハーベスト社へ業務委託する予定です。この他、基本的にこれまでの編集委員会の方針を踏襲して編集事務を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

新編集委員会事務局の住所は次の通りです。投稿先の宛名も次の住所に変更になりますので、ご注意ください。

〒520-0862

滋賀県大津市平津2-5-1

滋賀大学教育学部 早川洋行研究室 気付

日本都市社会学会編集委員会事務局

E-mail : hayakawa@sue.shiga-u.ac.jp

◆ 『日本都市社会学会年報』26号(2008年発行)自由投稿論文および研究ノートの募集について

すでにお知らせの通り、編集委員会では年報26号に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集しています。投稿を希望される会員の方は、『年報』24号(2006年発行)に掲載されている編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2007年11月末日までに上記の新しい編集委員会事務局(滋賀大学早川研究室)までお送り下さい。

なお、原稿中に図表を用いる場合には、できる限り横罫線のみ使用とし、縦罫線の使用はなるべくご遠慮下さい。編集コスト削減およびデザイン統一のための措置ですので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。(編集委員長 早川洋行)

第2回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査および推薦に関するお願い

日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。また、あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。今回、対象となるのは、(1)2006年1月から2007年12月末日までに公刊された著書・論文であって、(2)公刊時点で、著者が、博士(後期)課程入学後10年以内であった、日本都市社会学会会員の研究業績です(「会員名簿」巻末の若手奨励賞内規もご覧下さい)。

文献調査 上記の基準を満たす著書・論文を発表した若手会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2008年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦 上記の基準を満たす著書・論文のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績」をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。なお、他薦であって、上記の基準(2)を満たしているかどうか確認できない場合には、その旨の注記をお願いいたします。同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項を記入の上、2008年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。

宛先/問い合わせ先 学会事務局の住所は、本ニュース1頁目にあります。予算の関係上、送料は自己負担でお願いいたします。また、この件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mail でお願ひします。

(会長 町村敬志)

会員異動

新入会員

<北海道・東北>

濱田国祐 北海道大学大学院

<関東>

稲垣伸子 慶應義塾大学大学院

藤本頼生 国学院大学大学院

本間久美子 立教大学大学院

小山田基香 立教大学大学院

<中部・関西>

加藤泰子 同志社大学大学院

<海外>

林 明鮮 中国山東工商学院(大学)社会学研究所

退会

<北海道・東北>

堀川尚子 北海道大学

<関東>

新津晃一 国際基督教大学

矢野裕児 流通経済大学

H.Loiskandl 常盤大学

篠原直人 東京都立大学大学院

<中部・関西>

伊藤聖二 兵庫教育大学大学院

田保 顕 大阪市立大学大学院

溝口潤一郎 兵庫教育大学大学院

<中国・四国・九州>

白石秀寛 熊本県立東稜高校

藤井浩人 九州大学大学院

学会事務局より

◆学会事務局の移転について

2007年度大会から2009年度大会までの2年間、学会事務局が立教大学社会学部江上研究室に置かれることになりました。移転に伴い学会員の皆様には何かとご迷惑をおかけしておりますが、皆様のご協力を得て仕事をしていく所存ですのでどうかよろしくお願ひいたします。なお、学会ニュースの1ページ目に新事務局の連絡先がでていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前学会事務局同様、e-mail もしくはファックスでお願い出来れば幸いです。

◆ 大会に参加されなかった会員の皆様で、2006年度分までの会費納入済みの皆様には『日本都市社会学学会年報25』、前事務局で作成していただいた「日本都市社会学学会会員名簿2007年版」そして学会ニュースを同封いたしました。会費未納の皆様には、会員名簿と学会ニュースのみを同封いたしました。

◆ 第25回大会は天候にも恵まれ活気に溢れた大会になりました。開催校の山口大学三浦典子会員、横田尚俊会員をはじめ関係者のみなさまに新事務局からもあつくお礼申し上げます。そして、前学会事務局の広田康生会員、事務局幹事をされた藤原法子会員のご尽力に心から感謝申し上げます。

◆ ニュース原稿編集の都合により、発行が遅くなりましたことをおわびいたします。本ニュース到着の時点で、年報への投稿はすでに締め切られております。この点、ご理解いただけますと幸いに存じます。

(事務局)